

第36回全国火葬情報交換会シンポジウム「火葬場管理のあるべき姿」に 三木会長・玉寄副会長がパネリストとして出席（ご報告）

日時:令和4年10月24日(月)9:00～12:00

場所:幕張メッセ国際会議場3階301

火葬場の近代化と運営管理の適正化に向けた調査研究、情報提供、教育研修及び相談指導等に取り組み、本会と友好団体でもあるNPO法人日本環境斎苑協会が、今年創立50周年を迎えられました。日本環境斎苑協会では、毎年火葬情報交換会を開催されていますが、今年度は創立50周年を記念して「火葬場管理のあるべき姿」をテーマにシンポジウムが開催されました。コーディネーターとして奥村明雄氏(日本環境斎苑協会理事長)が、またパネリストとして喜多村悦史様(元東京福祉大学・大学院副学長)・横田 勇氏(静岡県立大学名誉教授)、本会から三木求会長と玉寄将副会長が出席しました。横田・喜多村パネリストからは、それぞれの立場から大きく変動する社会構造の中で今後の火葬場管理のあるべき姿について発表されました。三木会長からは、今後火葬場の適切な管理と火葬技術管理士の育成が重要なポイントになると力説されました。また、玉寄副会長からは、インフラとして火葬場の建設を促す施策が必要であると持論を展開されました。

※ このシンポジウムの概要は、令和4年12月7日付環境新聞2636号に掲載されています。



(右側:玉寄副会長 右から2番目:三木会長)